

7.7千葉市空襲66周年 戦争を繰り返さないための集い2011

13S ○ 2011年(平成23年)7月8日(金曜日) 千葉市 第1

千葉空襲から66年

体験者が語り継ぐ



戦争末期の1945年7月7日にあった米軍の千葉空襲。その体験を語り継ぐと、空襲から66年となる7日、千葉市文化センターで体験者が講演し、約100人が参加した「写真」。

戦争体験を伝える紙芝居を上演している「ちは、戦争体験を伝える会」と「千葉市空襲と戦争を語る会」が主催し、東京大空襲を含めた体験者5人が講演した。

航空機を組み立てていた中村敏夫さん(81)は避難する途中、近くに爆弾が落ちた。爆風で眼球が飛び出さないようにすぐに手で目を耳を押さえ、そのまま畑の

中に吹き飛ばされた。「戦争は始まったら、もう手遅れ」と語り、起させない努力が重要と訴えた。伝える会が紙芝居も上演した。

千葉空襲は、45年6月10日と7月7日の2回あった。米軍の資料や市などによると、爆撃機B29など計156機が来襲し、当時約10万人いた市の人口のうち、約4万人が被災し、死傷者は約1600人という。

講演に来ていた千葉市中央区大森町、館山久さん(65)は「戦後生まれで空襲は直接知らないが、戦争は本当に悲惨だとしみじみと感じた」と話していた。